

## 12月2日 公述人5（会場①国土交通省関東地方整備局下館河川事務所）

### 意見の概要

私は、15年くらい前に頸椎管狭窄症で手術をして二ヶ月位入院しました。退院してからリハビリの為に小貝川の土手を散歩中に余りのゴミが多いのに気付き、それ以来何とかしようと思って拾い始めたのが今日に至っています。最初は冷蔵庫、洗濯機、タイヤ、墓石まで有りました。市役所のゴミ対策課に連絡したところ市では持って行けないと言われましたが担当課長と話、説得し持って行ってもらうことになりました。市役所の1t車で2台分を職員4～5人きて積んでいたのを思い出します。その時に水海道出張所の所長さんと職員が立ち会って写真を撮っていました。それ以来、愛国橋から下流のゴミは私が拾っています。台風など大雨の時、増水時には、ペットボトル、缶、瓶なども拾い集めてゴミ袋に入れ土手の上に置いておくどパトロールの車が持って行ってくれます。また、土手の道路や集落から土手に続く坂路も舗装されていますが一般車の通行を規制してあるため土手の幅が広い所には樫の木が植えてあり、住民のみんなが散歩やレクリエーションの場として使用しています。現在は、土手に隣接する畑を自ら買収して「小貝川ふれあい駐車場」として無料で一般開放しており、釣り人や散歩に来る人が喜んでいます。この地は眺めが良く日光男体山、日光白根山、赤城山、谷ッ岳連峰、浅間山、秩父連峰、富士山など山々は美しく観ることができます。「ふるさと」の唄が流れでくる。唄いたくなる地域であるため、孫子の代までこの風景を残していきたいと思えます。昔から洪水被害に見舞われた土地ではありますが、私たちのふるさとを代表する「小貝川」です。堤防除草の回数も増やすなど、住民が安心して小貝川にふれあい親しみ関心を持つことがゴミの無い素晴らしい景色の川になると思っています。行政と地域住民とが協働で小貝川を守っていけるような河川整備計画にしてもらいたく意見を述べたいと考えています。